



インド第1パンジャブ連隊(鳥取市・岩倉鳥取連隊) 昭和21.22年頃
 <生田晴美氏所蔵・鳥取県立公文書館提供>

進駐軍は鳥取で なにをしていたか

県立公文書館県史編さん室
 西村芳将

3種類の進駐軍

実行部隊

Tactical Troop

武装解除と治安維持を任務として上陸した実践部隊（陸軍・空軍）

軍政部

Military Government Unit (team)

占領政策の地方レベルの進捗を監視。弁護士・退役軍人などの文官が多い。米第8軍司令部に月例報告書を提出（→占領期の鳥取を学ぶ会で解説中）

情報部（対敵諜報部）

Counter Intelligence Corps

占領政策遂行の障害となる事項を探查した諜報部隊。日系人を多数登用。

鳥取県に進駐した部隊

実行部隊

軍政部

情報部

米子

鳥取

米子経済部

旧海軍美保航空基地

中部47部隊（岩倉兵舎）

西町木村邸

英空軍第22憲兵隊

S20. 11-
米第6軍第10軍団第24師団
第3聯隊160名

S20. 10-
米第6軍第10軍団第24師団
第21連隊約200名

S21. 5-
英空軍（RAF）第11飛行中隊
英空軍第17飛行中隊
英連邦インド空軍（RIAF）第4
飛行中隊

S21. 5-22. 8
英連邦インドパンジャブ
第1連隊第5大隊

県庁・宣教師邸

S21. 2-6
鳥取
軍政中隊

20
10
1
米軍情報部

教育会館

S21. 7-24. 6
鳥取軍政部

二ノ丸

21
英連邦軍情報部

イント独立
S22年8月帰国

鳥取大学学芸学部などに払下げ

24. 7-11
鳥取民事部

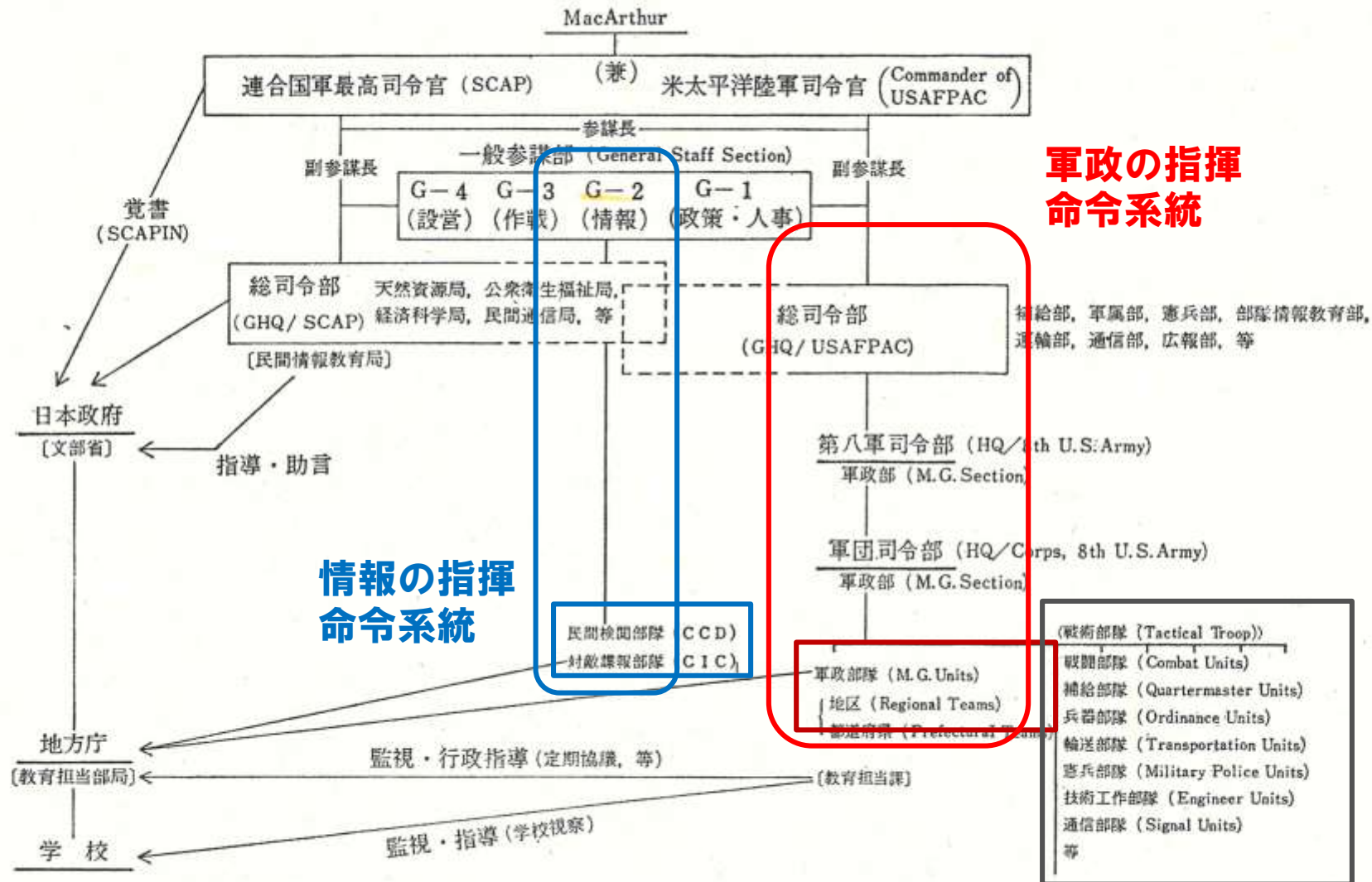
23年5月7日
米軍に引渡し

11/30 府県民事部廃止
（地区民事部へ）
12/31 第8軍民事部
→GHQ内民事局

※他に英印軍食糧供給部（米子永興産業）、鉄道管理部（RT0、鳥取駅・米子駅）あり

占領管理機構図

対日占領管理機構図(1946年7月現在)



(注) 下記の諸資料を参照し, 教育管理を中心として作成した。

第八軍司令部 "Status of Units and Station List" (『GHQ/SCAP Records』 CAS (B) 3586, "Headquarters 8th U.S. Army" (『外務省外 F13 p.505), 竹前栄治『占領戦後史—対日管理政策の全容』 (1980) p.39

米第10軍第24師団

第21連隊（鳥取）、第3連隊（米子）

第10軍団第24米歩兵師団の鳥取進駐

- 昭和16年10月1日ハワイ師団をもとに編制。16年12月8日真珠湾攻撃で師団司令部が攻撃を受ける。17年までオアフ島北部防衛を担当。18年オーストラリアに移動。19年ニューギニアで日本軍と戦闘、制圧。19年から20年にかけてフィリピンのレイテ・ルソン・ミンダナオ島等で日本軍と戦闘。飛行場を制圧。ミンダナオのパトロールを継続。
- 20年10月22日 師団将兵 1 万2, 000人が愛媛県松山に進駐し、司令部を愛媛県立図書館におく。
- 10月28日 先遣隊情報官ラスボン中佐一行6名米子到着。県内巡視（県庁、飛行場、道路、港湾、大山）11. 6離県。
- 10月29日 第21歩兵連隊オスボン少佐以下197名が鳥取駅に到着。事務所を県庁内、宿舎を岩倉兵営におき占領業務を開始。



第24師団の師団章
タロイモの葉

米軍の司令部所在地

〔第1図〕 進駐部隊の主要司令部の所在地

(昭和20年10月15日頃の状態を示す)

占領初期
第6軍西日本／第8軍東日本
↓
昭和21年1月
第6軍動員解除／第8軍日本全土

GHQ(総司令部)
xxxx Army(A) 軍
xxx Corps(C) 軍団
MC 海兵軍団
MD 海兵師団
CF 艦隊

出典：毎日新聞社「日本がいちばん苦しかったとき—21世紀への伝言」(暮らしの友本部)2001, 42-43頁及び「占領史録」(下)432-433頁

*
地図に表示したマークの六角形のは第6軍の、八角形のは第8軍の徽章である。



第10軍団



第8軍

第6軍

出典：丸の内中央法律事務所の事務所報弁護士堤淳一氏執筆「進駐軍が街にやって来た」(平成27年8月1日)
<http://www.mclaw.jp/column/tsutsumi/column036.html>

24歩兵師団の 鳥取進駐

初の鳥取進駐部隊オスボーン少佐以下198名の将兵は特別仕立の列車で27日午後〇時15分鳥取駅着来鳥し、駅頭に出迎えた伊藤参謀、樺山警察部長、吉村市長等に軽く会釈してから駅長室に入り、酒井通訳官を通じて武器接收の打合を行った後将校は乗用車で、下士官はバスに分乗、はるばる持ってきたジープ2台を従へて宿舎四十七部隊に回った。県で最初将校用宿舎として観光ホテルを準備していたが、少佐以下はこれを謝絶し「だが兵営は非常に汚いから」と勧めるのを強って拒り兵と同一宿舎に入った。

進駐軍二百名が昨日鳥取入り／駅頭に沸く朗かな爆笑

(日本海新聞 昭和20年10月30日付)





24歩兵師団の 鳥取進駐

廿九日来鳥した初の米進駐軍アスポーネ少佐以下百九十八名の一行は一先づ四十七部隊に引上げたが県側の懇切な招請に謝意を表し将校十余名は夕刻観光ホテルに入り応接間で煎茶をすすりながら足腰を伸して永の旅の疲れを休めた。給じする女中のキモノを眺めて「とても美しいね」と賛美の声を放ち土産に買って行きたいと洩し、倉光総務課長から「ちゃんと用意してゐるが、四、五日待って下さい」と聞いて大喜びだった。（中略）覇者に往々にしてありがちな傲慢粗暴の風はチリほどもなく、飽くまで謙虚で紳士的な彼等だった。鳥取の人たちも戦時中宣伝された悪印象をサラリと捨て、自由の戦士たちを迎えるべきであらう

紳士的な米進駐軍の態度 鳥取の第一夜

（日本海新聞昭和20年10月31日付）

公文書館ホームページで見だし検索可能！

新聞記事に現れた「進駐軍」

掲載日	掲載日	見出し	番号
□	S20.09.04	連合軍進駐にも度を失せぬ用意	37
□	S20.09.10	進駐軍に接する場合は	117
□	S20.09.20	食肉は当分ご辛抱 進駐軍へ供給のため	205
□	S20.09.27	軍紀厳正一山口県警部補進駐軍を語る	283
□	S20.10.03	進駐軍専門のみやげ店開設一早くも米子市に準備	347
□	S20.10.14	民芸品など 進駐軍のお土産に併せて県下の産業再建一県商経会から計画案を答申	514
□	S20.10.20	土産品など一慰安バザー 米子市・進駐軍受入れに万全	604
□	S20.10.24	進駐軍来鳥の場合 鳥取市で協力隊など結成	656
□	S20.10.22	郷土の工芸美術を採る（一） 好評博して海外へ 進駐軍のお土産にも万点	637
□	S20.11.01	（写真）進駐軍の買い物風景（鳥取市若桜街道所見）	773
□	S20.11.01	蘭秋の大山へ登る 米子進駐軍のラ中佐一行	774
□	S20.11.01	きのふ本社で会談一左側通行を厳に 進駐軍から市民に要望	775
□	S20.11.01	吹っ飛んだ杞憂 鳥取市内の進駐軍朗景	776
□	S20.10.31	鳥取の第一夜一（ ）紳士的な米進駐軍の態度	777
□	S20.10.30	進駐軍二百名が昨日鳥取入り 駅頭に沸く朗らかな爆笑	738
□	S20.10.30	進駐軍迎へる学徒の心得	742
□	S20.11.02	（写真）婦人衣裳を身につけて喜ぶ進駐兵（きのふ鳥取市若桜街道筋の土産バザーにて）	790
□	S20.11.02	条件の良い進駐軍協力隊 無職者を優先的に選出する	791
□	S20.11.05	進駐軍中北條の軍施設接收	752
□	S20.11.04	親切な米軍将兵 掃除婦が語る宿舍の進駐軍	834
□	S20.11.05	大宅壮一氏の講演本社速記（上）無事進駐は天皇制の威力 混乱してゐた軍の宣伝戦術	855
□	S20.11.05	鳥取署から注意一復員の軍装は止めよ 進駐兵の嫌ふことを選け！	849
□	S20.11.05	進駐兵は綺麗好き 石鹸持ってクリーニングに	850
□	S20.11.04	進駐兵（鳥取市末広座前に拾った街頭親善風景）	828
□	S20.11.05	（写真）進駐軍行進中米軍音楽隊の演奏（鳥取市末広座前）	829

S20.11.03 (写真) 美保飛行場を視察の米進駐軍第十軍団第二十四師司令コード代将	810
S20.11.03 進駐兵は裾模様が好み 鳥取市の呉服屋さんホクホク	進駐兵は裾模様がお好き
S20.11.03 (写真) 進駐軍点描	
S20.11.09 奇特的な進駐兵 墓口を交番へ	進駐軍も力ニは大好き
S20.11.06 忘れぬ味覚 進駐兵も蟹は大好き	875
S20.11.11 米子に連合軍百六十名進駐	970
S20.11.22 進駐兵を慰安 女給サンの奉仕	米子に160名進駐
S20.11.27 供出を防げるもの誰ぞ 因伯革新党の政策発表から波紋 在鳥進駐情報官も注目	1157
S20.12.02 進駐軍慰安所 市民用も計画中	1199
S20.11.28 大集合に注意！進駐軍司令官命令	進駐兵慰安所
S20.12.19 クリスマス招待 鳥取市が進駐軍幹部を	1301
S20.12.28 進駐軍ストップ 享楽街に立入禁止命令	1217
S20.12.27 進駐軍の演劇検閲方針一剣劇も舞台に上演 但し民衆のために斬るもの	クリスマス招待鳥取市が進駐軍幹部を
S21.01.15 大工さん出動 進駐軍関係労務	進駐軍の演劇検閲
S21.01.13 販売品は価格を表示 十五日から県下一斉に実施 進駐軍将兵の免税措置	0
S21.01.30 進駐軍の労務 特典付きの募集	7
S21.01.29 進駐軍から鳥取署に 再び警告！！	1981
S21.02.26 進駐軍慰安 特殊施設協会設立	進駐軍から鳥取署に警告
S21.03.10 進駐軍の軍票 拒否せぬやう	2322
S21.03.14 鳥取市民に進駐軍から注意	進駐軍慰安特殊施設協会設立
S21.03.13 実弾射撃 進駐軍より市民に注意	2795
S21.03.20 お米も特配 進駐軍から 大工等募集	鳥取市民に進駐軍から注意
S21.03.27 進駐軍の交渉 日商国際局が仲介	3075
S21.04.06 不埒者を逮捕 進駐軍で窃盗	3101
S21.04.19 英印軍鳥取にも進駐 五月中旬にパンジャツブ部隊が	英印軍鳥取にも進駐
	5月中旬にパンジャツブ部隊が

英印第1 パンジャブ連隊

第5大隊

進駐軍の部隊変遷

- 実行部隊
- 軍政部
- 情報部

米子

鳥取

米子経済部

旧海軍美保航空基地

中部47部隊（岩倉兵舎）

西町木村邸

英空軍第22憲兵隊

S20. 11-
米第6軍第10軍団第24師団
第3聯隊160名

S20. 10-21. 5
米第6軍第10軍団第24師団
第21連隊約200名

S21. 5-
英空軍（RAF）第11飛行中隊
英空軍第17飛行中隊
英連邦インド空軍（RIAF）第4
飛行中隊

S21. 5-22. 8
英連邦インドパンジャブ
第1連隊第5大隊

県庁・宣教師邸

S21. 2-6
鳥取
軍政中隊

20
10
1
? 米軍情報部

教育会館

S21. 7-24. 6
鳥取軍政部

二ノ丸

21
?
英連邦軍情報部

インド独立
S22年8月帰国

鳥取大学学芸学部などに払下げ

24. 7-11
鳥取民事部

23年5月7日
米軍に引渡し

11/30 府県民事部廃止
（地区民事部へ）
12/31 第8軍民事部
→GHQ内民事局

※他に英印軍食糧供給部（米子永興産業）、鉄道管理部（RT0、鳥取駅・米子駅）あり

□	S21.04.19 英印軍鳥取にも進駐 五月中旬にパンジャブ部隊が	3890
□	S21.04.23 強制的でない 進駐軍協力労務	3952
□	S21.04.29 野球仕合 進駐軍対鳥取一中 七対二で鳥中に	4111
□	S21.04.26 野球仕合 一中クラブ 対進駐軍	4024
□	S21.05.06 進駐軍向労務 市当局よりお答へ	4227
□	S21.05.25 給与も引上げ 進駐軍 ■係務に常勤者を勧告	4614
□	S21.05.21 進駐軍に対する諸注意	4548
□	S21.06.01 米在鳥進駐軍 英印軍と交替	4788
□	S21.06.01 温い進駐軍の好意 重病の婦人に救ひの手	
□	S21.05.31 進駐軍労務 常時労務者倍加 これで割当半分	4759
□	S21.05.31 南国情緒豊かに後進絵巻を公開 英印軍がきのふ鳥取で	4883
□	S21.05.29 進駐軍の街路行進 州日鳥取市で展開さる	
□	S21.06.06 英印軍MP 治安維持に五日から出勤！	4883
□	S21.06.06 進駐軍設営用資材 生産促進に協力 命令の写しを県商工課へ	
□	S21.06.09 まだ足りない 進駐軍の労務者 最高金額一日三十七円！	
□	S21.06.18 進駐軍の物品を買ふと罪 米子で最初の軍事裁判	5121
□	S21.06.26 英印軍師団長来鳥	5248
□	S21.07.05 牛馬を虐待せぬよう 進駐軍から禁止指令	5402
□	S21.07.19 倒すな道路標示板 進駐軍から嚴重警告	
□	S21.08.03 死を防ぐためには抵抗 進駐軍将兵の犯罪事故防止へ 軍政中隊から協力を要望	5941
□	S21.08.08 強制的かノーか 問題の種、進駐軍への労務	6037
□	S21.08.05 汗と闘ふ学生の群 働いて書籍代 進駐軍労務に毎日五十名	
□	S21.08.17 町内割當の全廃へ 一ヶ月後には常用者だけ 進駐軍労務	6193
□	S21.08.17 九州・四国・本州南部に警報 進駐軍気象観測所	6184
□	S21.09.06 学校だより 多い米工生の進駐軍向労役勤務	
□	S21.09.05 進駐軍労組同盟を結成	
□	S21.09.02 占領六ヶ月英聯の報告 進駐兵力三万八千 地域も一島六県二万平方哩に拡大	6454
□	S21.09.10 進駐軍専用車に乗らぬやう	6617

野球試合進駐軍対鳥取一中

米在鳥進駐軍 英印軍と交替

南国情緒豊かに後進絵巻を公開

英印軍MP治安維持に出勤

英印軍師団長来鳥

牛馬を虐待せぬよう

倒すな道路標示板

進駐軍専用車にのらぬよう

英連邦軍進駐後の 占領地域区分

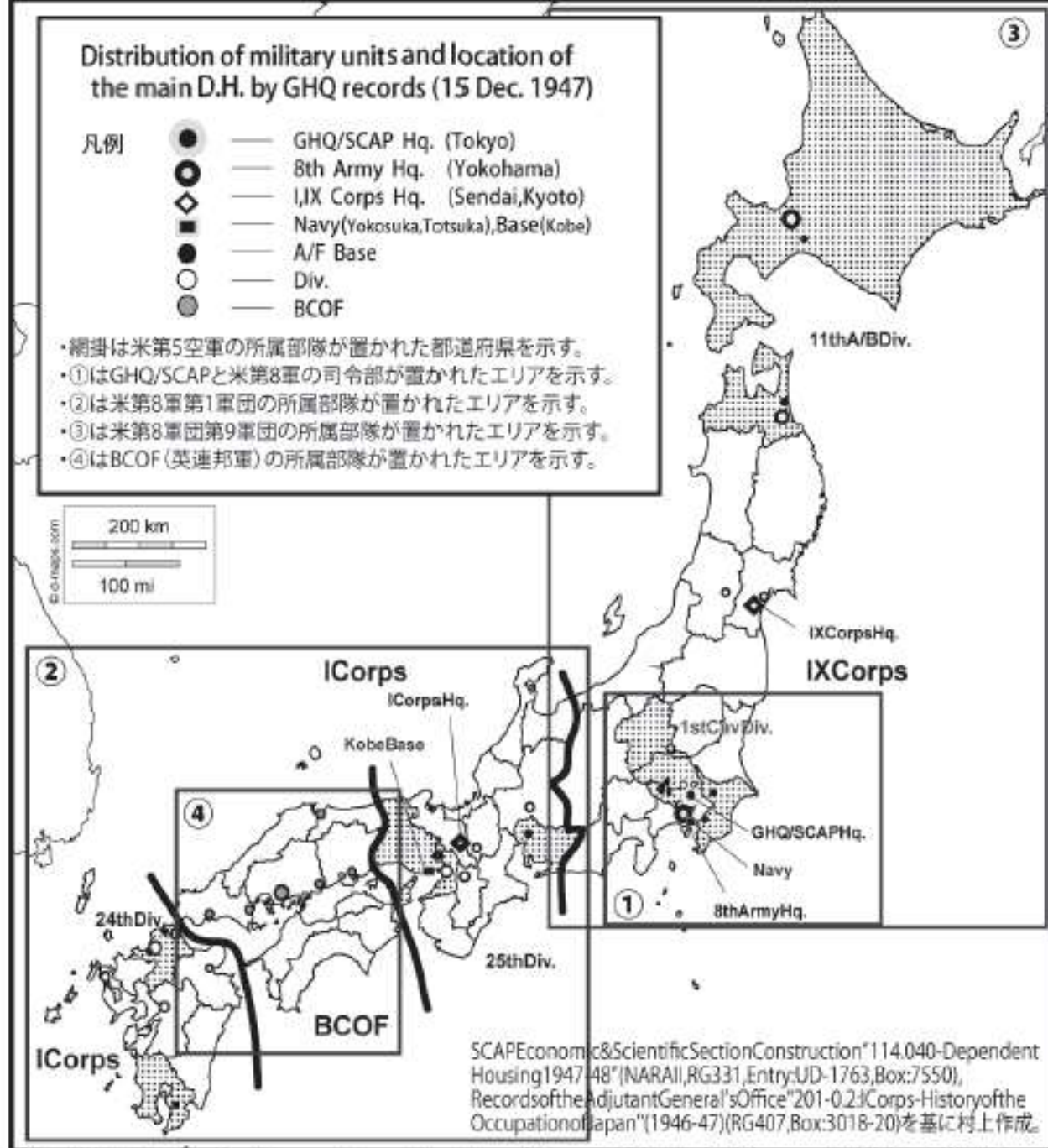


Fig.1 Distribution of military units and location of the main D.H. by GHQ records (15 Dec. 1947)

出典『占領下日本における部隊配備と占領軍家族住宅の様相』村上しほりほか

英連邦軍の 占領地区と時期

3－1表 BCOFの占領地区と時期

単位：人・平方マイル (km²)

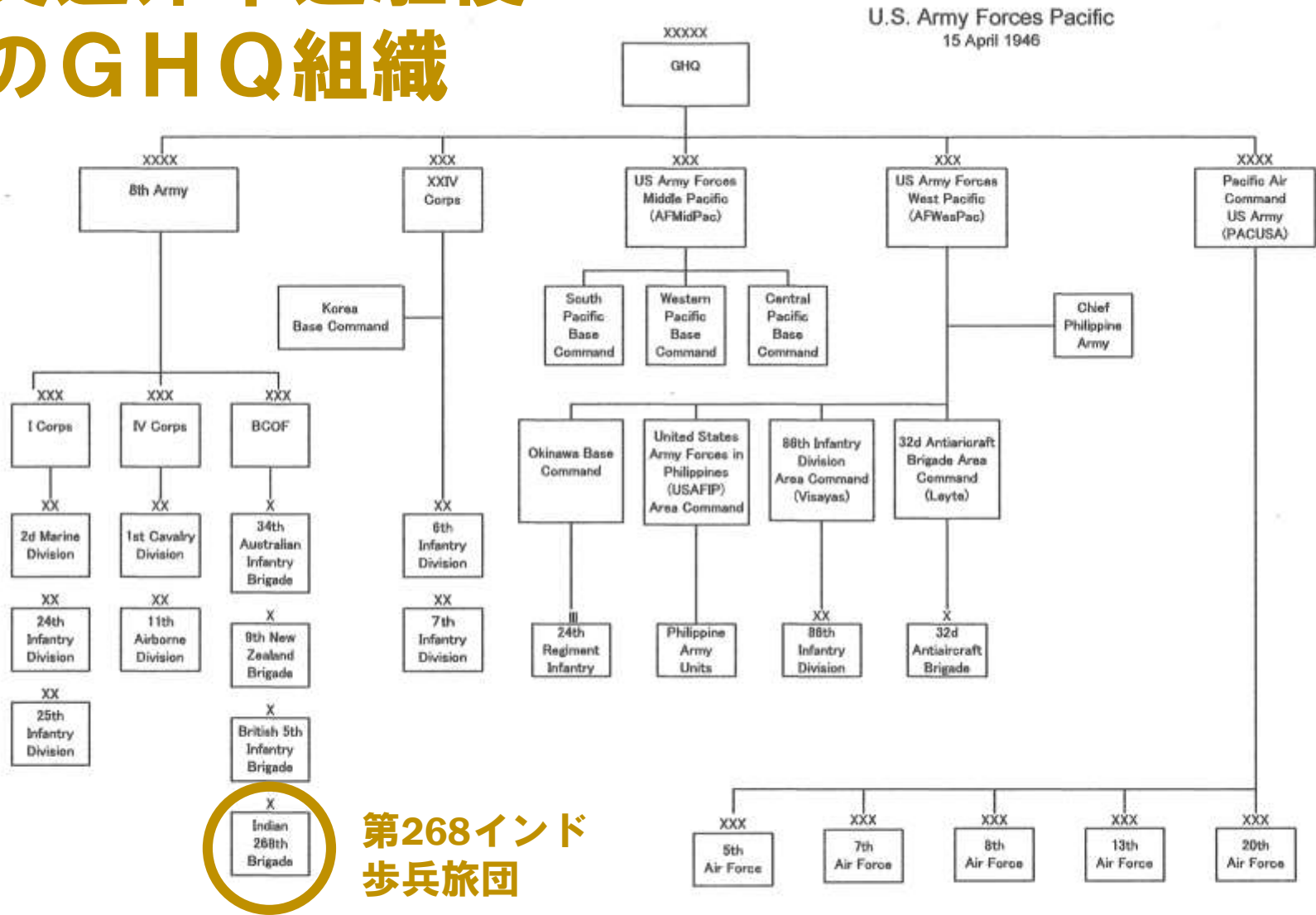
県 名	人 口	面 積	BCOFが占領した時期
広島	1,870,000	3,257 (8,436)	昭和21年 3 月 7 日
山口	1,294,000	2,348 (6,081)	3 月23日
島根	741,000	2,557 (6,623)	4 月15日
鳥取	484,000	1,363 (3,530)	5 月15日
岡山	1,329,000	2,752 (7,128)	6 月10日
香川	730,000	726 (1,880)	5 月23日
徳島	719,000	1,618 (4,191)	5 月23日
高知	709,000	2,775 (7,187)	5 月23日
愛媛	1,179,000	2,214 (5,734)	5 月23日
計	9,055,000	19,610 (50,790)	

出所；BCOF Area and Population of Occupation Zone, Army X'mas Book, 1946 (AWM 114 130/ 1 /23 pt.1).

注；面積欄の（ ）内数字は、平方キロメートルの換算値である。

出典：千田武志『英連邦軍の日本進駐と展開』

英連邦軍進駐後のGHQ組織



第268インド
歩兵旅団

Source: Organization of General Headquarters and Major Units / Supreme Commander for the Allied Powers and United States Army Forces Pacific

日本占領に参加した英印師団

編制 第5イギリス歩兵旅団＋第268インド歩兵旅団

司令官 D・T・コーワン少将

司令部 岡山

第268インド歩兵旅団配下の部隊

- ・旅団司令部（松江）
- ・第1パンジャブ連隊第5大隊（ビルマ戦線で活躍）→鳥取
- ・第5ロイヤル・グルカ・ライフル隊第2大隊（同）→岡山
- ・マハラッタ軽歩兵隊第1大隊（イタリア戦線）→浜田

上陸経路 S21. 4. 29ボンベイ発の輸送船団で5月19日呉港着

英連邦インド パンジャブ第1連隊第5大隊

- ・英印軍「東洋の海に浮かぶイギリスの兵舎」＝インド大陸の治安維持、英領国境防衛、大英帝国拡張の起点。前身はイギリス東インド会社の旧マドラス軍。1857年の第一次インド独立戦争の後にイギリスによって創設。将校はイギリス人（インド人将校も少数あり）。第一次、第二次大戦で海外派兵。（アフガン戦争、エジプト出兵など）
- ・1944年、鳥取の郷土部隊「歩兵第121連隊」はビルマの戦いに参加。英印軍と戦闘し敗退。歩兵第121連隊史の名称は『渦巻くシッターン』。



第1連隊徽章

英印パンジャブ第1連隊第5大隊の鳥取進駐

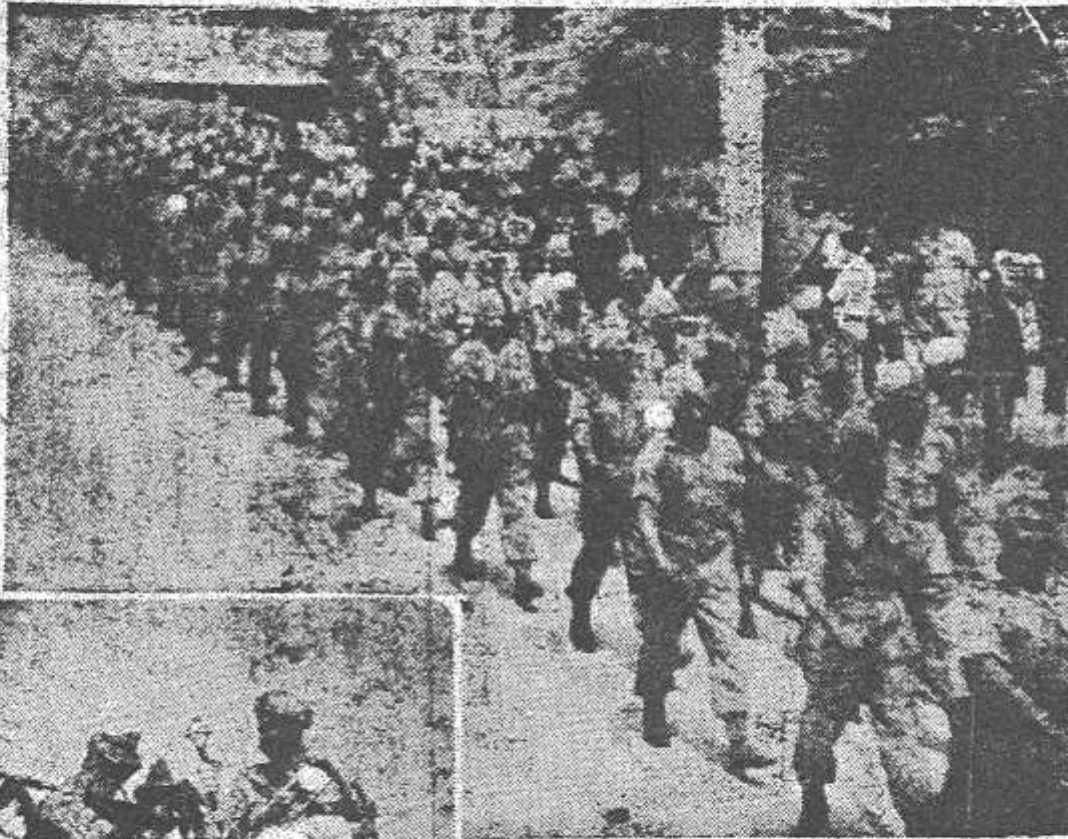
南國豊豆かに行進1繪巻を展開 情緒豊かに1繪巻を展開

英印軍がさのふ鳥取で

初夏の爽やかな風、街頭を泳ぐやうに流れてゐる三十日
恵まれ、快晴と朝風に誘つて来たかの如き南、情緒豊か
な一大繪巻が鳥取市に繰り広げられた、一瞥にそして
さびやかな花鳥空の市中行進である。

行進の1隊は午前九時三十分、隊と豊後、若狭街道、市街前を
通り、集合、十時五十分、豊後、市街前から豊後街道へ放
ツペジ中佐の発令一下、先づ豊後街道を通過して十時四十八分、
「パンジビー」豊後街道の大隊のバタ、再び豊後街道へ集合、集まる英

ならび、指揮官一列しては豊後
の旗を掲げ、初、見るアラビ
アンナイト宛らの夢の如き南國
情緒に市民は奇異と歓呼の声を
送った。市街に各中隊毎に異、
豊後の節りと英印軍の如き南國
情緒の展覧は歩道を通り、豊後の
國人の國氣、豊後の如き南國
英印軍の市中行進。



ン中隊の隊や、吹奏隊、台、印駐軍の市街行進を終了した
と、豊後の節りと英印軍の如き南國情緒の展覧は歩道を通り、
國人の國氣、豊後の如き南國英印軍の市中行進。

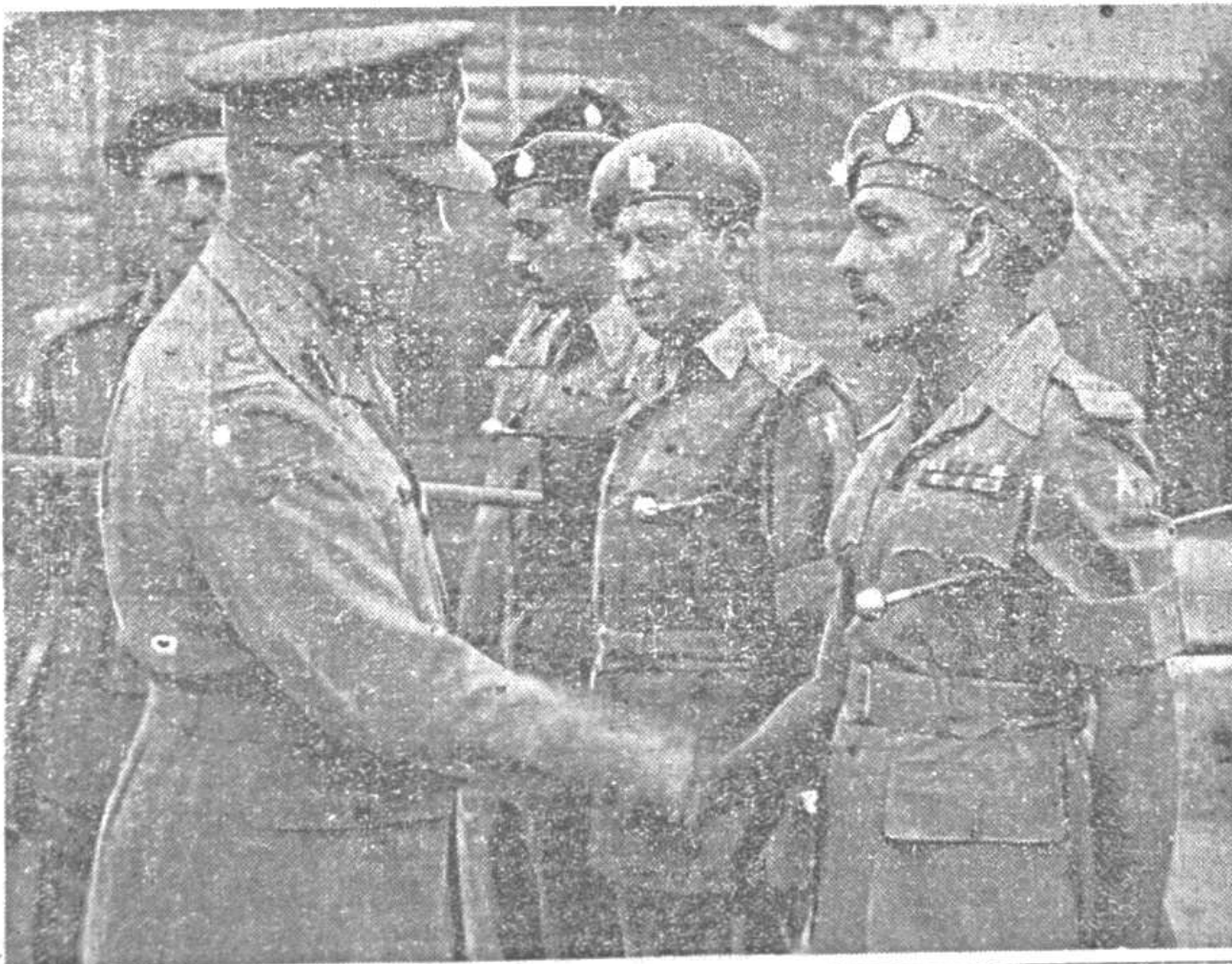


初めてみるアラビアンナイト宛らの夢の如き
南國情緒に市民は奇異と歓呼の声を送った

1946年5月31日付日本海

英連邦軍新聞s21.6.29

旧岩倉兵舎で英連邦
ノースコット総司令
官と握手を交わすパ
ンジャブ第1連隊第5
大隊長のカーン隊長



ON HIS LAST TOUR of BCOF units, the retiring C-in-C, Lt-Gen. John Northcott, shakes hands with Risaldar Maj. Ahmed Khan, who has had 34 years of service in the Indian Army, at 51 Punjab Bn. Hq., Tottori.

**Sally Says Cops
Can't See Straight**

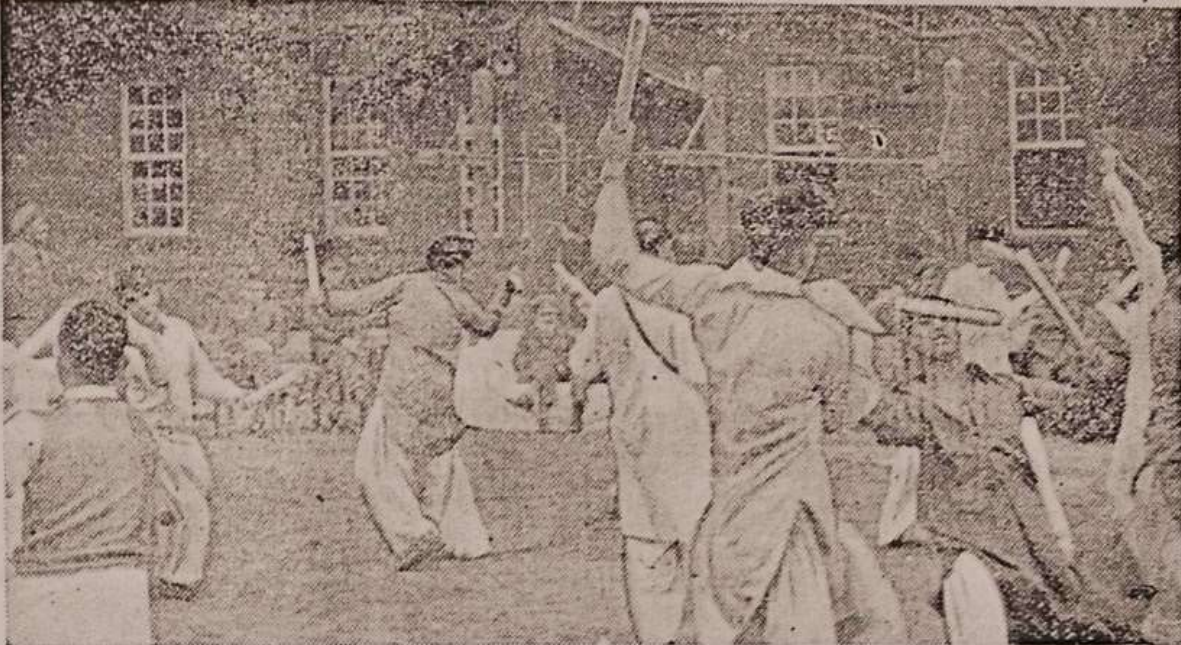
New York, Fri.—Within 24

英連邦軍新聞s21.11.14

INDIAN SECTION *Thursday, November 14, 1946.*

In Bombay

C-in-C WATCHES 'HAZARE' DANCE



THE C-in-C, Lt-Gen Robertson, watches an 'Hazare Dance,' performed by the Hazare Company of the 5/1 Punjab Regiment. URDU: C-in-C Lt-Gen Robertson "Hazara Dance" ko dekh rahe hain, jokihi 5/1 Punjab Regiment ki Hazara Company ne dikhaya.

2000 Kelie Commission
Qarib hi Indian Army men

英連邦軍総司令官が
パンジャブ第1連隊
第5大隊のハザレダ
ンスを観覧

英連邦軍新聞s21.12.20（左）、24（右）



皇居前広場での警備の交代をするパンジャブ第1連隊第5大隊と米軍第27連隊（左）、共同警備の準備をするパンジャブ第1連隊第5大隊・米軍第27師団第25連隊第1中隊（右）

英連邦軍新聞s22.2.4



雪の鳥取連隊運動場
(playground)

“drillground”
(練兵場) をもじっ
ている？

「映画ではコーンフ
レークを使うそうだ
が、鳥取の雪は本物
だ！」

連隊ごとに一年間の活動を紹介

1

...the advance parties moved at Kure. 16 February, is behind this achievement.

7th Light Cavalry Regiment.

On March 28, 1946, the first party from the regiment, comprising 2 officers and 38 men, arrived in Japan, aboard the "S.S. Oriana."

This advance party prepared a temporary camp in Hiro. On the 18th April, the rest of the regiment arrived.

By May 12 the regiment was at Kurashiki, a very good spot, both from the point of view of armoured cars, and for barracks accommodation.

At the beginning of June a series of races were undertaken, covering the whole of the regimental area.

The main tasks were searching for concealed dumps, and for subversive activity.

Lieut-Gen Northcott, C-in-C BCOF, at that time, visited us on June 18. On this day the first Brindiv race meeting was held.

In the beginning of September, we experienced a change of command when Colonel Still left for leave in the UK.

The C-in-C, Lieut-Gen Robertson, with the GOC Brindiv, paid a visit to the regiment on October 23, during his tour of the Brindiv area. Two days previously one Squadron had departed to the regimental range for firing practice—the first time we had used our guns in Japan.

On the 13th November, a big regimental party was held, in honour of



THE colourful costumes and skilled instrumentalists of the Indian regimental bands have become famous throughout occupied Japan. Here is Pipe Major, Sedar Khan, 5th Bn, 1st Punjab Regt.

5th Battalion, The First Punjab Regiment

The Battalion reached Kure on 18 May where it was met by the C-in-C BCOF who inspected a Guard of Honour on the Dock. The unit moved immediately to Tottori and began settling into the very derelict barracks, partly occupied by a Coy of the U.S. Army which handed over and a combined ceremony was held for the flag changing on June 1.

On 30th May the Battalion with Band and Colours paraded through the streets of an impressed Tottori, doing a six mile Flag March.

In the next three months after arrival in Tottori the whole of the mountainous Prefecture was covered by patrols.

During the period the Battalion was visited by the C-in-C BCOF on June 17th. In October there were inspections by the new C-in-C BCOF, Lt-General Robertson and again by the GOC Brindiv.

By November the Battalion was settled in all the barracks of Tottori. It had a canteen with a F.A.N.Y. detachment; started the Regimental Garden and reclaimed a large area of playing fields and a long and short range.

The Battalion moved on 1 December to Tokyo and took over Guards in front of the Imperial Palace from the 2nd Royal Welch Fusiliers on 2 December. Later detachments from 429 Ind. Fd. Coy and the RNZAF joined the Battalion in Tokyo.

On the 11th December the Battalion took part in a combined Guard Changing Ceremony in conjunction with 1 Coy 27 Inf. U.S. Army in front of the Imperial Palace. Guards of Honour were mounted for the C-in-C BCOF at Haneda Air Port and Tokyo Railway Station on 13 December and 26 December. In addition the Pipe Band proved a major attraction in an American Red Cross procession on 21 December.

1st Battalion, The 5th Mahrattas Light Infantry

The Mahrattas, less advanced parties, set foot upon the Japanese island of

Sayonara

The Fifth British Brigade, having been the only infantry of the United Kingdom to participate in the occupation of Japan.

Announcement of the end of the Brigade, which concluded with the receipt of the first year's service in Japan, showed that one reason for the success of the Occupation is the end.

This statement, in itself, is a tribute to the part played by the Brigade in the British Commonwealth's occupation task, and tribute to a Brigade which has served in the last war at Dunkirk, through Burma, and, after, came to the end in Japan.

ent
outd
the
pot
t
youn
De
Aug
by
Mah
follo
proa
nigh
Th
erab
ing
turn
the
alien
At
fully
send
patr
Office
and
in 12
the
more
ings.
Th

パンジャブ第1連隊第5大隊

大隊は5月18日呉港着。すぐに鳥取に移動し、米軍が一部を使用していた荒廃した兵舎に駐屯。6月1日に軍旗交代の合同式典を行う。

5月30日軍楽隊と旗を用いて鳥取市内を6マイルの行進。続く3ヵ月で山がちの鳥取県全域をパトロール。

6月17日英連邦軍司令官ノーススコットの視察を受け、11月には新司令官ロバートソンと英印軍司令官の査察を受けた。

11月までに大隊は鳥取のすべての兵舎を接收。英国女性部隊（First Aid Nursing Yeomanry）の売店もあった。（元連隊の庭園で大きな遊技場となった。）

12月1日に第2王立ウェルチ歩兵隊から皇居前近衛兵を引き継いだ。その後、インド第429野戦部隊と王立ニュージーランド空軍の派遣隊が東京の大隊に参加した。

12月11日、皇居前で大隊は米第27歩兵部隊第1中隊との合同交代式に参加した。BCOF総司令官の栄誉礼は、12月13日及び12月26日に羽田空港と東京駅でも行われた。12月21日のアメリカ赤十字の行進では、パイプバンドが魅了した。



Ceremonial retreat at Tokyo 1946.8.6

A guard from the 5th Gurkha Rifles, assisted by the massed pipe bands of the 1st Punjab Regiment, The Queen's Own Cameron Highlanders and the Royal Gurkha Rifles together with the Kumaon Regimental Band, conducted a ceremonial retreat on the Plaza outside the entrance to Hirohito's palace. Major General Cowan, General Officer Commanding Brindiv, took the salute at the march past. Lieutenant General (Lt Gen) Robertson, Lt Gen Eichelberger, Mrs McArthur and son were among the many Allied spectators of this event. A recording which includes an explanation and description of the event has been secured for Military History Section and has already been forwarded to Australia by Lieutenant Freeman.



AUSTRALIAN WAR MEMORIAL

132499

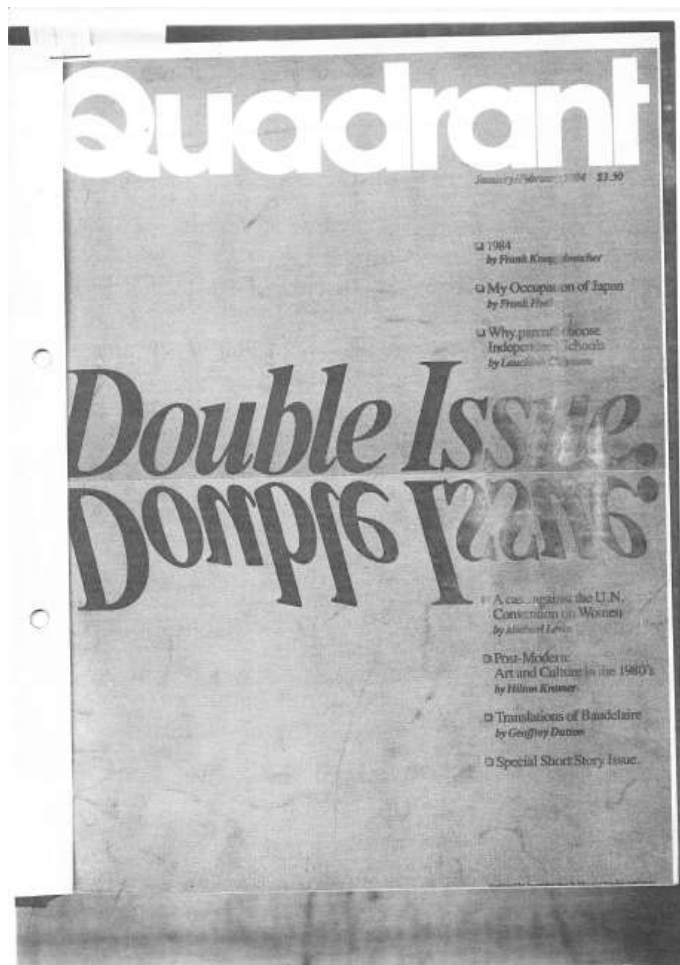
オーストラリア戦争博物館所蔵写真

TOKYO, JAPAN. 1947-01-06. THE 5/1 PUNJAB REGIMENT PRESENT ARMS TO THE RELIEVING 66TH INFANTRY BATTALION BEFORE THEY TAKE OVER GUARD DUTIES.

米軍と英印軍と日本軍

Our Occupation of Japan F. C. Hutley

(オーストラリアの研究雑誌Quadrant掲載)



- 日本の基準では、両県（鳥取・島根）とも人口は少なく、産業も商業もほとんどなかった。瀬戸内海に面したBCOFの人口密集地との交通は貧弱で、岡山から米子に至る鉄道があり、米子で本州西側を回る山陰線と合流した。広島から松江までの道路を除いて、本州横断道路は交通がほとんどなく、封鎖されていた。
- 鳥取県は実に僻地で、以下の二点を除いて軍事政権にとってはほとんど重要ではなかった。ひとつはそこが余剰食糧地域であって飢餓に苦しむ首都圏の食糧を供給する役割を果たしていたこと、そして朝鮮に直面していた、朝鮮人が法的には不可能な日本への入国を希望していたことである。

米軍から英連邦インド軍へ



- ・ 約7日間、米国部隊とパンジャブ第1連隊第5大隊の先遣隊は、聞くとところによれば日本陸軍部隊を収容していた巨大な兵舎と一緒にいた。両軍隊間の対比の大きさは想像できなかった。米軍兵士たちは、まるで失業者の群衆のように、粗末な服を着て、手入れもされていないまま、兵舎でぶらぶらしていた。確かに、彼らは米国に帰還する予定だった。インド人部隊は、きちんとした規律をもつ模範的な組織だった。ある日、インド人兵士が自力で訓練の動作をしているところを目撃され、アメリカ人兵士が英語を話す士官に何をしているのか尋ねた。答えは、兵士は自分の訓練の完成度に満足しておらず、それを改善するために練習しているというものだった。息を飲むしかなかった。
- ・ 軍政は、軍隊または軍政隊長に緊張を与えなかった。わずかな危険もなく、一人で自由に県内を移動できた。地元紙によれば、鳥取の郷土部隊がアッサム州コヒマの戦闘でほぼ全滅したといわれていたのに。

歩兵第121連隊（中部47部隊）の ビルマ防衛戦

第54師団は、1940年8月第10師団の満洲進駐に伴い創設。1943年2月動員下令、同年3月編成完結し宇品、門司を出港、ジャワ、マライ、上海を経て、同年9月ラングーン（ヤンゴン）港上陸。ハ号作戦、完作戦、邁作戦に参加。1945年6月下旬ペゲー山中に転戦、7月に下旬にトンゲー付近においてシッタン河渡河、シッタン河東岸に沿って南下、シュエジン附近で終戦を迎えた。最後の師団長は陸軍中将宮崎繁三郎。終戦後、一部（病馬廠部隊）は、ビルマ（ミャンマー）で連合軍要求作業に従事し、1947年6月9日乗船出港、同年7月3日宇品港着、同月4日復員完結。

出陣時2905人（転出入計3086人）→終戦時1020人

出典：アジ歴グロッサリー「第54師団（兵）」



円護寺にあるビルマ
方面戦没者慰霊塔

歩兵第121聯隊史
「渦巻くシッタン」

出典『太平洋戦争大全陸上戦編』

米軍情報部

第441防諜隊部隊

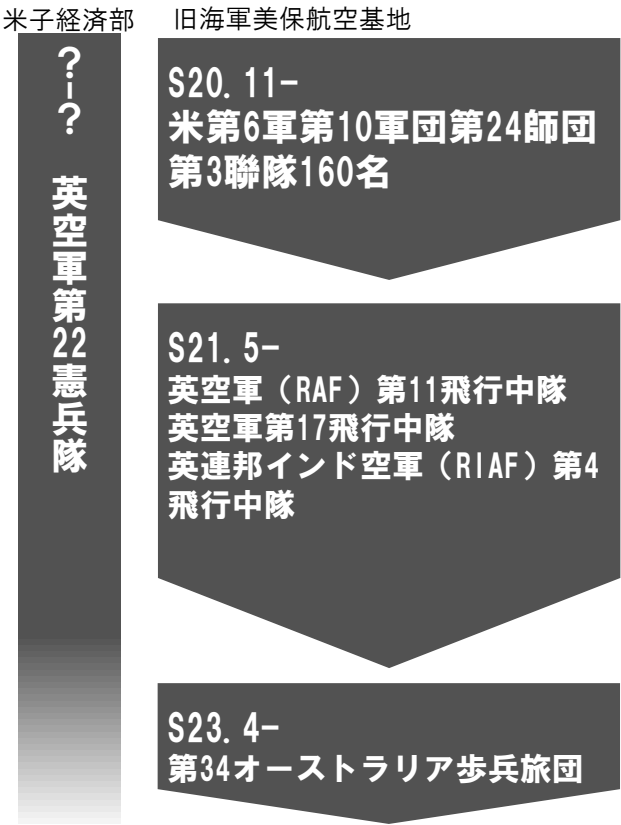
進駐軍の部隊変遷

実行部隊

軍政部

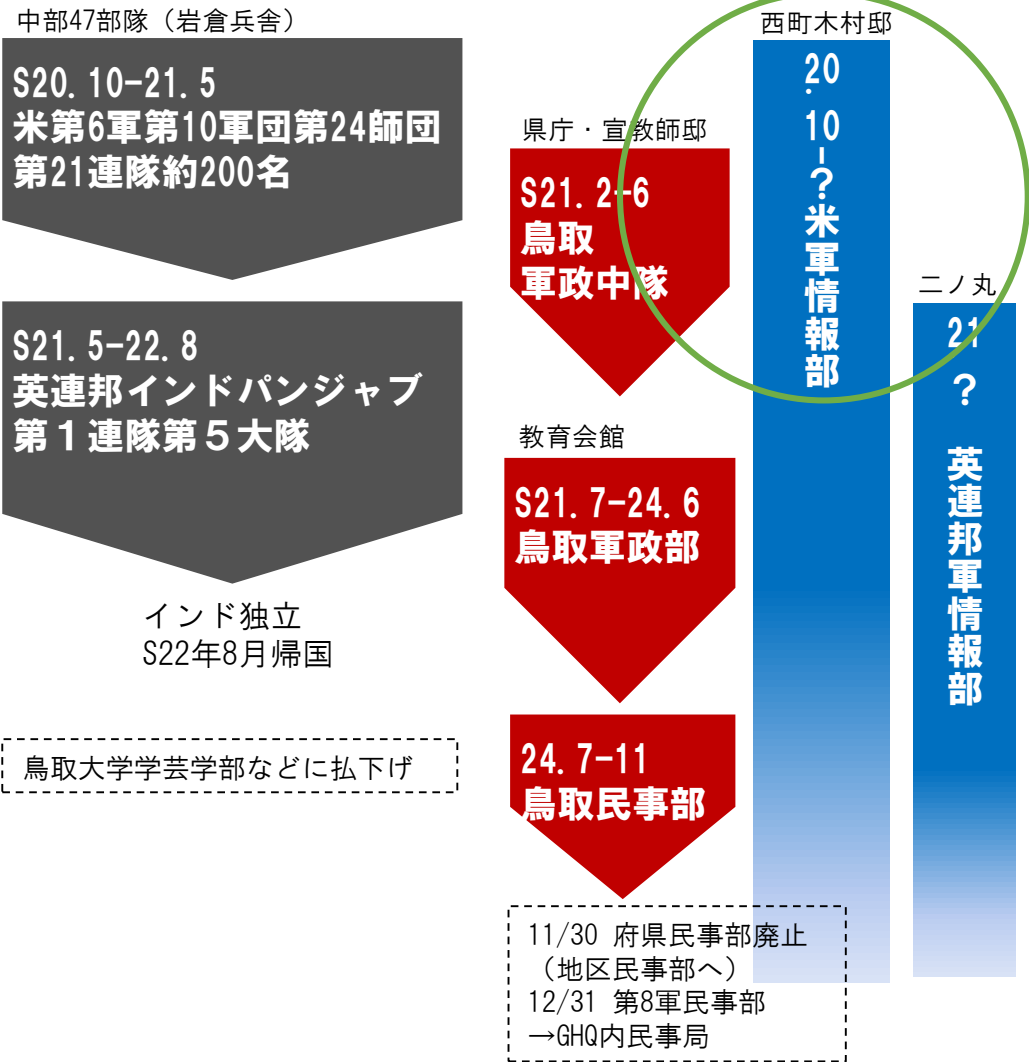
情報部

米子



23年5月7日
米軍に引渡し

鳥取



※他に英印軍食糧供給部 (米子永興産業)、鉄道管理部 (RT0、鳥取駅・米子駅) あり

第441防諜隊部隊

- 1944. 8. 20ブリスベーンで動員、これに伴い廃止された第5227防諜隊部隊の人員・文書・装備を引き継ぐ。1944. 11. 17ホランディアに移動、1945. 4. 14マニラに移動、日本へ移動し日本全国に置かれた防諜隊部隊（CIC を統括する中央の部隊となり、連合国最高司令官総司令部民間諜報局（Civil Intelligence Section）の一部門ともなる。
- 上位部隊：1944. 8. 20極東陸軍、1945. 6. 10米太平洋陸軍、1947. 1. 1極東軍
- （出典：国会図書館日本占領関係資料 World War II Operations Reports, 441st Counter Intelligence Corps Detachment）



米CICパッチ

情報部の調査活動

52 県内進駐後の連合軍の行動

・一九四六（昭和二一）年一月一九日

終連総務部一課

発警第四八号

昭和二十一年一月十九日

鳥取県知事 林 敬三印

（警察部長）

内務省警保局長

終戦連絡中央事務局長

終戦連絡大阪事務局長

中国地方行政事務局長

殿

中国各県長官

（県下各警察署長）

渉外事項二関スル件

米第六軍（現在第八軍）第十米第六軍（現在第八軍）第十軍団第二十四師団第二十一聯隊（本部岡山）進駐軍八管下鳥取市元中国第四七部隊兵舎二客年十月二十九日、西伯郡大篠津村元美保海軍航空隊兵舎二全年十一月十二日進駐其後情報官、憲兵、軍政官モ進駐シ其ノ活動ハ最近頓ニ活潑トナリタルガ、本県進駐後本年一月十八日迄ニ於ケル主ナル渉外事項別表ノ通ニ有之
右及申（通）報也

日付	件名	内容
昭和20年10月29日	進駐ノ件	鳥取市四七部隊オスボン少佐以下一九八名
	調査事項	鳥取情報官ヨリ ・ 自八月十五日至十月二十六日 刑務所収容人員 ・ 十月中ニ於ケル捕縛者数及被告ノ犯罪ノ種類 ・ 留置場ニテ於ケル人数
11月1日	調査事項	鳥取市ムレー情報官ヨリ ・ 鳥取県在住朝鮮人調 ・ 警察部警察署所在地、部課署長官職氏名、任命年月日 ・ 六ヶ月以内ノ官職氏名 ・ 警察官現在実人員 ・ 基督教会宣教師及信者 ・ 在外日本人調
11月2日	民間武器接收	エヴァンス准尉外一名 民間武器接收
11月5日	調査事項	鳥取市ムレー情報官ヨリ ・ 県内発行新聞紙名及発行部数

日付	件名	内容
11月23日	警察兵器調査	進駐軍二名警察保管兵器調査ノタメ来訪
11月25日	警察兵器引渡	オスボン少佐に警察兵器引渡
12月3日	警察部無電機調査	鳥取ムレー情報官警察部無電機調査
12月8日	調査事項	鳥取ムレー情報官 ・外国生レノ日本人
12月27日	公私娼特殊慰安施設等調査	警保局長ヨリ昭和二〇、一二末公私娼免許地区、営業者数、娼妓二千スル各種調査、廃娼運動調其他
12月29日	投書二基ク調査及検索	鳥取情報官ペトレ・クキーンハ若桜山本なつ投書二係ル今町平井自転車商ハ戦時中ノ勤務先タル軍需会社ヨリ持帰りタル日本刀十数本隠匿、又闇取引シ居ル件二千シ全町役場倉庫検索セルモ現品ナク、又平井ナル該当者ナシ
昭和21年 1月4日	進駐軍用ポンプ提供	鳥取オスボン少佐ノ命令 腕用ポンプ二台ヲ設備セヨ

日付	件名	内容
1月4日	調査事項	鳥取情報官ヨリ ・逮捕数調査
1月5日	調査事項	鳥取情報官ペトレ・クキーンヨリ ・現職警察官（巡査部長以上）ノ氏名、拝命年月日、前職調 ・一九四五・八以降一二・三一迄ノ□□□等解雇警察官ノ氏名ト其ノ理由 ・一九四六年第一週ニ於ケル犯罪種類別件数 ・暴動、暴徒等ノ発生並原因ノ詳細
1月5日	鉄道健民修鍊所視察	午前四時頃鳥取停車場司令部輸送主任レスター・アルバートソンハ鳥取駅長、助役、通訳全伴岩井 鉄道健民修鍊所視察、六日午前八時帰鳥
1月7日	警察兵器弾薬海没作業	オスボン少佐ノ命ニ依リ四七部隊ニ保管中ノ警察兵器弾薬ヲ賀露港ニ於テ海没ス、進駐軍二名立会
1月7日	学校視察	鳥取進駐軍六名 浦富・岩井国民学校視察 教授状況、武器隠匿状況等視察異状ナシ

日付	件名	内容
1月7日	視察・検挙	鳥取ハンマー中尉外五名通訳一名 ・ 倉吉貸座敷業地域ニ進駐軍立入禁止制札標示 ・ 倉吉町主要飲食店三ニ対シ進駐軍立入禁止文書交付 ・ 店頭ノ日本軍人服装ノポスター二枚撤去 ・ 書店ヨリ軍国主義的書籍数冊押収
1月8日	役場検察	鳥取進駐軍六名網代村役場検索 軍友会旗一旒、警防団長腕章一ケヲ押収
1月9日	学校視察	鳥取進駐軍六名午前十一時河原国民学校視察 科学書二、陸軍報道部地図一押収
1月10日	投書ノ件	鳥取情報官ヨリ日本人ノ借家立退問題ニ干スル投書 ニ基キ解決方揭示
1月12日	武器引渡其他命令事項徹底方ノ件 命令	午前十時三十分軍政部隊長ウエズレー・N・ゴードン中佐ハ警察部長ヲ四七部隊ニ召喚上記指示
1月10日	軍政官来鳥	軍政官五名（オスボン少佐ヲ含ム）ハ鳥取ニ来リ 十四日ヨリ県庁ニテ執務

日付	件名	内容
1月13日	進駐軍ニ対スル飲食物提供禁止命令	鳥取オスボン少佐ヨリ新鮮ナル果物ヲ除ク外料理屋等ニ於テ進駐軍ニ飲食物提供スルヲ禁ズ但ビール、酒ノ提供ハ可
1月14日	神通鼓吹図書取締ノ件	命令鳥取軍政中隊ヨリ命令
1月14日	酒醸造工場等視察	鳥取進駐軍ウィリアム・R・アーレン中尉以下六名河原町川田酒醸造工場視察
1月15日	学校視察	鳥取進駐軍アーレン中尉以下六名八頭郡八上西郷・国英、佐治第一・第二国民学校視察軍国的書籍・写真・ポスター押収
1月16日	ポンプ及消火器供出命令	鳥取進駐軍オスボン少佐ヨリ兵舎ニ手輓ガソリンポンプ二台及消火器一〇筒供出方命令
1月17日	民間武器徹底搜索命令	鳥取情報官ヨリ鳥取市内ニテ進駐軍ト日本刀ニ振ト煙草ト交換セシ事実アリ隠匿民間武器ヲ徹底搜索索引渡スベシト命令


ディスカバー・ニッペイ*
*日本人移民とその子孫

EN JA ES PT

新規アカウントの作成 パスワード再発行のリクエスト



[ストーリー](#) | [コミュニティ](#) | [資料](#) | [サイト情報](#)

資料 / 日系アメリカ人兵役体験記録データベース / Search results

Ralph Yoohachi Nishime


[View larger image](#)

性別 Male

生年 1921-11-18
月日

出生 Koloa, Kauai HI, U.S.A.
地

Search the database

キーワード

First name Last name

性別 ☐ 写真

[More options](#)

データベース検索のコツ

Use **Keyword** to search for words and phrases occurring anywhere in the record other than in a personal name, for example: "ammo dump" "Lost Battalion"

ニッペイ人の名前



ニッペイ人の名前: 太郎、ジョン、フアン、ジョアオ?

「ニッペイ人の名前」シリーズ投稿作品を読む

最新情報を入手

最新情報メールの配信登録

プロジェクトをサポート



ディスカバー・ニッペイは、日系アメリカ人の歴史を伝えるためのプロジェクトです。より良いものにしていくためには、皆さまの力が不可欠です。ご支援をお願いします!

[サポートの方法](#)

米軍情報部隊長 ニシミ少尉の回顧

- ・ 氏名 Ralph Yoohachi Nishime
- ・ 性別 Male
- ・ 生年月日 1921-11-18
- ・ 出生地 Koloa, Kauai HI, U.S.A.
- ・ 入隊した年 1945-2-1, Fort Sheridan IL
- ・ 入隊のタイプ Draftee (徴募)
- ・ 所属・部署 Army (陸軍)
- ・ 兵役のタイプ War
- ・ 所属部隊のタイプ Support
- ・ 所属部隊 USA -Training Units at Camp Joseph T. Robinson, AR; Camp Ritchie, MD; Fort Mead, MD. **JAPAN - 441st Counter Intelligence Corps Detachment, GHQ, Far East Command; HQ, FEC Liaison Group , 8240 Army Unit, MIS**
- ・ 特殊技能 Infantry and Military Intelligence
- ・ 最終目標 USA - Camp Joseph T. Robinson, AR; Camp Ritchie, MD; Fort Mead, MD; Japan

「米軍情報部は昭和20年10月29日進駐、事務所を県庁、観光ホテルに移転せるも昭和21年4月3日鳥取市西町木村清一居宅を接收、5月21日同所へ移転、現在（S22. 4）に至る。（隊長ニシミ少尉）」

（「内務部長引継書」県史現代1収録）

米軍情報部隊長 ニシミ少尉の回顧



- 鳥取県では、担当官や特別企画官のほかに、主に警察署長、主任検事、場合によっては知事との県職員との連絡や、鳥取県に駐留していた陸軍行政部やイギリス軍部隊との連絡を担当しました。私たちの事務所では、共産党指導部の活動や、当時活発化していた労働組合の活動を詳細に監視しました。我々が任務を遂行するのを助けるために、我々は警察から毎日報告を受けた。また、現地の報道機関からの主要なニュースを翻訳するために日本人を雇いました。また、信頼できる通訳を養成しました。元警察官で、日本政府関係者や地域の他の指導者との交流を深めるのに貢献してくれました。警察のアシスタント・チーフは私たちのオフィスでいつも電話をかけてくる人で、私は彼と良い仕事の関係を築きました。このような背景のもと、私たちの担当分野における活動を、本社に十分かつ正確に伝えることができました。

米軍情報部隊長 ニシミ少尉の回顧



- 東京に着いてから、私は説明のために数週間そこで過ごし、それから京都(第4CIC州)に数週間、そして最後に神戸(第92メトロポリタン・ユニット)に行き、そこでCICエージェントとしての仕事を始めました。1946年6月、私は第二外国為替手数料を受け取った後、岡山市(第7CICエリア)に転勤になりました。三か月後、鳥取市(第7CICエリアのサブオフィスであるCICエリア7A)の担当役員と特別企画官に任命されました。「日本の習慣、人、言葉に親しむこと。現在の安全保障上の規制を考慮し、慎重に対情報活動を監視する想像力と判断力を持つ。鳥取県での任務は、最もデリケートで難しい任務であり、対情報収集の観点から最も重要でした。」その立場は、7時間以上の移動時間を要するCICエリア7の司令官のみに報告する、極端な裁量と判断の自由度を要求する。私は、1950年2月まで鳥取に滞在し、その後、札幌第6CIC地区(北海道)に移動し(以下略)

米軍情報部隊長 ニシミ少尉の回顧



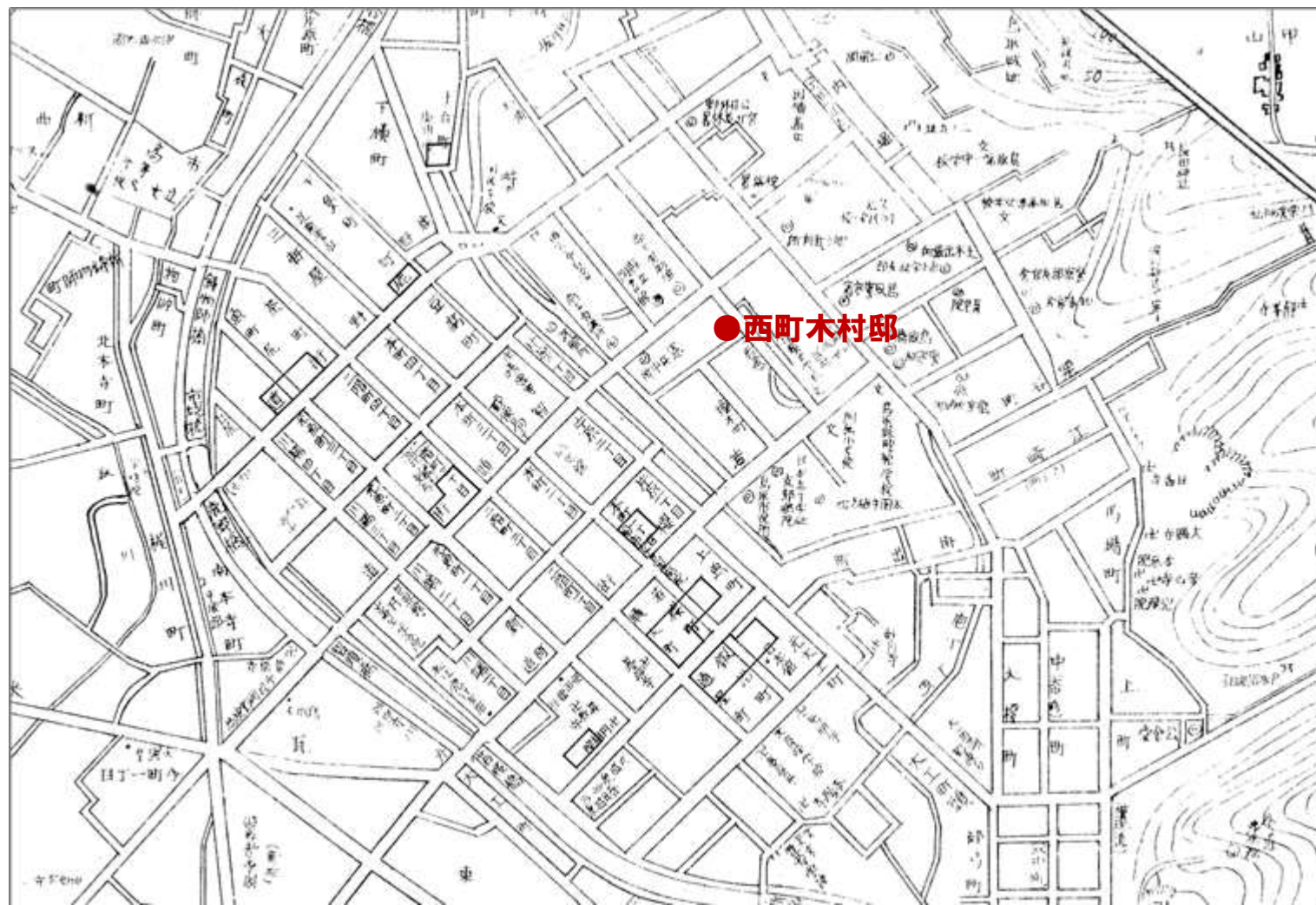
- 鳥取市の生活環境はとても良かったです。私たちは、従業員全員が十分な家具を備えた私邸を引き継いだ。全ての家事は、食事の準備を含め、現地の職員が行った。鳥取などの辺境地を週に一度ずつ視察するアメリカ陸軍のクォーターマスターは、部隊に食料(私たちのスタッフや全ての先住民族の労働者に十分な食料を供給しています)を気前よく供給した。私たちは旅行の必要条件をすべて満たすのに十分な数のジープを提供された。娯楽のために、軍は私たちに映写機を提供し、辺鄙な地域にアメリカ映画を配布した。また、日本の政府関係者や地域社会の人々が主催するパーティーにも頻繁に招待され、本部があらかじめ用意した資金でお返しをしました。もちろん、これらの接触の多くは業務目的でした。私たちは野球チームを結成し、いくつかの地元チームと試合をした。冬の間はスキーをたくさんした。私たちが訪れることができるバーやナイトクラブもたくさんありました。

「従業員全員が十分な家具を備えた私邸を引き継いだ」

接收住宅 西町木村邸

昭和21年3月30日 接收（TTRG-53）

昭和25年5月16日 使用解除

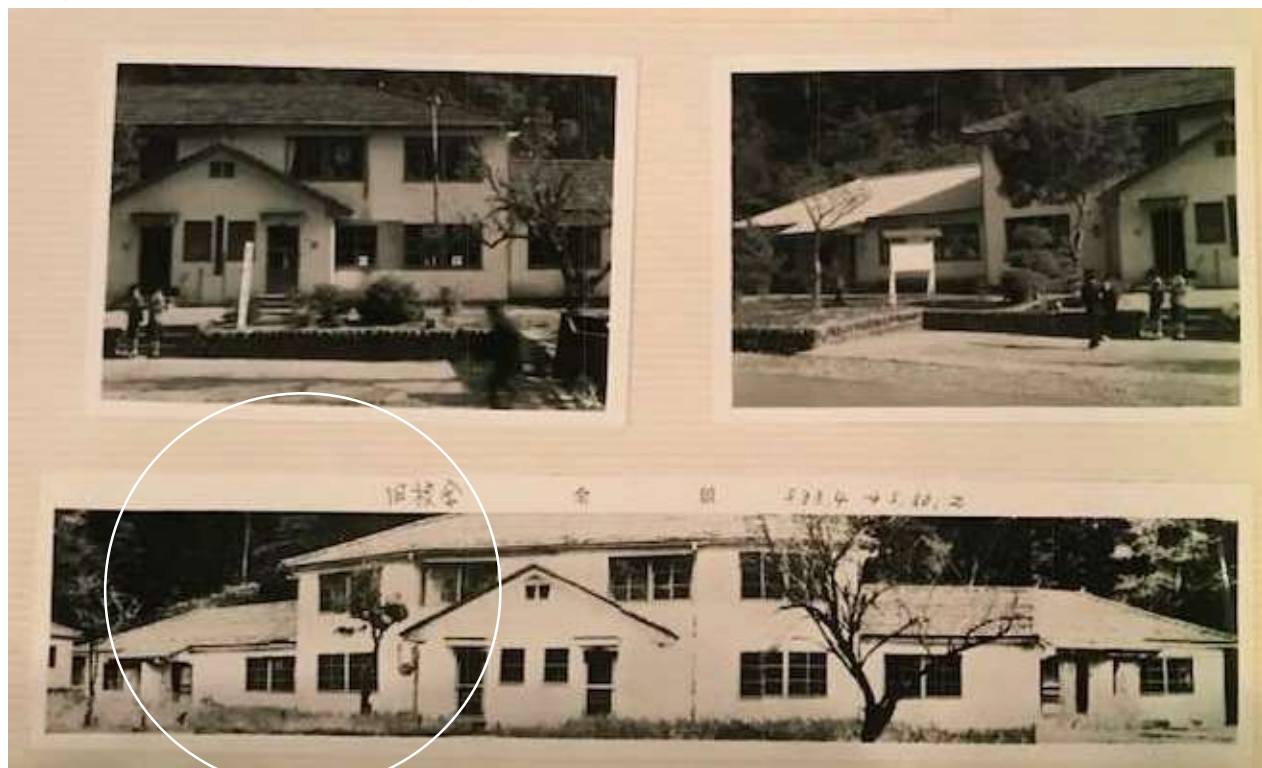


木村邸接收解除後s25.5.6 →元軍政部将校家族用住宅に移転か

「S27.5.24
鳥取情報部隊本部」
(個人蔵)



「S33.4~45.10.2 鳥取県理美容学校旧校舎」
(上田勝利さん提供)





**窓枠、屋根の傾斜が酷似
情報部本部時代はフェンスに囲まれ、国旗掲揚台
らしき支柱2本がみえる。隊長車パッカードか。**

米軍撮影写真にみる将校住宅（鳥取情報部）



S22.9.23
米軍撮影



S26.11.2
米軍撮影



昭和26年11月2日撮影写真には
中央1・左右2翼の建物2棟
が写る。

現在の地図と重ねてみると…



英軍情報部

進駐軍の部隊変遷

実行部隊

軍政部

情報部

米子

鳥取

米子経済部

旧海軍美保航空基地

中部47部隊（岩倉兵舎）

西町木村邸

??

英空軍第22憲兵隊

S20. 11-

米第6軍第10軍団第24師団
第3聯隊160名

S20. 10-21. 5

米第6軍第10軍団第24師団
第21連隊約200名

S21. 5-

英空軍（RAF）第11飛行中隊
英空軍第17飛行中隊
英連邦インド空軍（RIAF）第4
飛行中隊

S21. 5-22. 8

英連邦インドパンジャブ
第1連隊第5大隊

県庁・宣教師邸

S21. 2-6

鳥取
軍政中隊

20
10
1
? 米軍情報部

S23. 4-

第34オーストラリア歩兵旅団

インド独立
S22年8月帰国

鳥取大学学芸学部などに払下げ

教育会館

S21. 7-24. 6

鳥取軍政部

二ノ丸

21
?
英連邦軍情報部

24. 7-11

鳥取民事部

11/30 府県民事部廃止
（地区民事部へ）
12/31 第8軍民事部
→GHQ内民事局

23年5月7日
米軍に引渡し

※他に英印軍食糧供給部（米子永興産業）、鉄道管理部（RT0、鳥取駅・米子駅）あり

英軍情報部マイケル・スクリーチ氏の回顧

Posted to Tottori: Professor Michael Screech's Memories of Rural Post-war Japan. (桜文論叢：日大法学部、2019年3月発行) ※澤田晶子さん訳
<https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/treatise.html>

Screech氏が鳥取に着いたときは（S21春頃か）、城はすでに米
国陸軍の占領軍に接收されていた。米軍は城の下部（山下の
丸）を補修し、軍人の居住用にプレハブの建物を建てていた。
城にはほかに、大日本帝国軍が戦前、戦時中に使用していた木
造兵舎もあった。

軍のジープを道路に駐車し、急な坂を上って三番目の城壁（二
の丸）に上がらないといけなかったが、健康維持に役立った。

鳥取市民は戦争で大きな被害を受けなかったことを幸いにとら
えていると、Screech氏は感じた。43年の地震からの復旧も進ん
でいた。とはいえ、食も仕事も不足し、復員兵も多く、市民は
苦勞していた。

英軍情報部マイケル・スクリーチ氏の回顧

占領軍は多くの労働者を雇い、Screech氏の宿舎でも素晴らしい、笑顔の絶えないスタッフを雇った。BCOFの食糧の多くはオーストラリアから送られており、余るほどあったので、宿舎で働く日本人スタッフにもおすそ分けした。宿舎では10人強の地元民を雇っていた。地元のかわいい子供たちにもお菓子をあげた。

地元の人からはミカンをよくもらい、これが特においしかった。

公務員が公費で食事をできるのは占領軍と一緒にいた時だけという規則ができたため、週に3回は（地元の役人の）食事会に呼ばれた。しかし、選挙時は占領軍がどこかの陣営に肩入れしているように思われないうにしないといけなかった。

英軍情報部マイケル・スクリーチ氏の回顧

鳥取は呉よりのどかだったが、問題も起こった。1946年5月、倉吉近くの占領軍が使う道路に大きな石が20個置かれた。1947年6月、占領軍の乗った列車に投石があったがけが人なし。Screechはこれらを覚えていないが、米軍のバンダーツィープ氏（1947. 6～48. 11鳥取軍政部隊長）と毎日連絡会議を持った。インド兵も少数おり、Screech氏と緊密に連携したが、宿舎は城の別の場所にあった。インド兵は来るイギリスからの独立のことに気を取られていたようだった。インドの独立のニュースが届くと、母国に帰りたがった。

英軍情報部マイケル・スクリーチ氏の回顧

鳥取で大火が起こった際の地元の人への対応、特に市外から駆け付ける看護婦のグループが印象的で、Screechは起立して敬礼を送った。兵士の遺骨が家族の元に帰還すると分かれば、必ず街に出て、遺族が抱える遺骨の入った四角い箱が通り過ぎるまで敬礼した。

大学生の間で読まれている本をいくつか借り、時間をかけて読んだが面白かった。その一冊が「きけわだつみの声」。

現地の人と話をすることで、日本の様々な側面を積極的に知ろうとした。戦地での戦いについても率直に質問したが、説明できないといわれた。

1947年BCOFが日本での駐留を縮小、Screech氏は鳥取を離れた。その際、宿舎の使用人が感情をあらわに泣き出し、丘を駆け下りて、Screech氏らの一団が閲兵場を離れ右に曲がるのを見送った。不思議な体験だった。



※「英連邦軍情報部は二ノ丸公園に設けられていた。今、県立博物館が建つ所は市営グラウンドで、その上に山道があった。これをジープが走るように整備し、下段の二ノ丸まで上がった。着いた場所が情報部となっていた」(元県渉外局長上根政幸回顧録『砂にのこす』)

Google

まとめ

鳥取で進駐軍はなにをして いたか

実行部隊

武器接收、治安維持、学校視察、皇宮警備（インド軍）

情報部隊

警察、刑務所、外国人、報道機関などの事情調査

軍政部

民主化監視（選挙、福祉、衛生、教育、労組など）

.....

鳥取の印象

戦争被害のない平和な県、県民との友好的な関係

日本占領における鳥取県の位置

都市部への食糧供給基地、朝鮮人の密航監視